

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
部門長兼血液浄化副センター長 兼臨床研修指導者 兼臨床工学・技術副センター長 兼泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター 参事兼部門長代理	荒川 昌洋
主 幹	中西 潤
主 幹	中谷 暁洋
主 査	岩本 匡史
主 査	町田 麻実
主 査	為廣 理沙子
主 査	中平 大志
主 査	金口 優生
主 査	森田 庸介
他スタッフ	17名

＜特色と概要＞

「臨床工学技士」は、1988年に臨床工学技士法が施行され、厚生労働大臣の免許を受けて医師の指示のもとに、心臓手術中の人工心肺や心臓補助装置、人工呼吸器、人工透析装置を含む血液浄化装置などの「生命維持管理装置」の操作・保守管理を行う医療スタッフとなった。

2021年には臨床工学技士法の改正が行われ、生命維持管理装置の操作に加え、生命維持管理装置を用いた治療に関連する医療用装置（生命維持管理装置を除く）の操作が追加された。時代の変遷とともに業務範囲が拡大されている。

当センターでも、臨床工学技士はタスクシフト／シェアに力を注いでいる。現在、当センターには臨床工学技士が26名所属している。

＜認定資格など取得状況＞

(人)

認定資格	取得者数
体外循環技術認定士	2
不整脈治療専門臨床工学技士	1
ペースメーカー/ICD関連情報担当者(CDR)認定	1
植込み型心臓デバイス認定士	4
心血管インターベンション技士(ITE)認定	4
日本不整脈心電学会・心電図検定1級	3
日本不整脈心電学会・心電図検定2級	4
透析技術認定士	6
認定血液浄化臨床工学技士	3
血液浄化関連専門臨床工学技士	1
腎代替療法専門指導士	2
3学会合同呼吸療法認定士	6
認定集中治療関連臨床工学技士	4
呼吸治療専門臨床工学技士	2
CPAP療法士	3
臨床ME専門認定士	4
認定医療機器管理臨床工学技士	0
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)認定	0
認定臨床実習指導者	2
日本DMAT隊員	3
ICLSインストラクター	1
MCLSインストラクター	1
PC3インストラクター	1

＜実績＞

当部門における2025年4月1日から2026年3月31日までの業務実績を以下に示す。

＜呼吸関連業務＞

(件)

項 目	件数
院内ラウンド	153回
【RCT(Respiratory Care Team)】	
患者依頼件数	118
人工呼吸器離脱件数	100
【睡眠時無呼吸治療関連】	
簡易PSG(Portable Monitor)	92
終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)	59
CPAP導入	31
CPAPドロップアウト件数	17
CPAP転院	39
ASV導入	0
HOT導入	3

＜循環関連業務＞

(件)

項 目	件数
全体外循環症例	74
MICS:低侵襲心臓手術	27
緊急・準緊急症例	14
(通常体外循環法)	56
(脳分離体外循環法)	17
(超低体温循環停止法)	17
(部分体外循環停止法)	17
Off pump CABG	14
EVAR	12
TEVAR	13
回収式自己血輸血(心臓血管外科)	18
TAVI	20

項 目	件数
ECMO	45
(VA ECMO)	37
(VAV ECMO)	3
(VV ECMO)	37
IABP	22
IMPELLA	34

項 目	件数
心臓カテーテル検査	766
右心カテーテル検査	108
緊急症例	248
PCI	329
EVT	65
カテーテルアブレーション	301

項 目	件数
ペースメーカー植込み術	48
ペースメーカー交換術	23
リードレスペースメーカ留置術	31
ICD植込み術	6
ICD交換術	1
S-ICD植込み術	0
S-ICD交換術	0
CRT植込み術	3
CRT交換術	3
植込み型ループ心電計	18
CIEDs症例のMRI撮像対応	36
遠隔ホームモニタリング導入	114
デバイスチェック業務(遠隔データ解析を含む)	7,193

《代謝関連業務》 (件)	
項 目	件数
血液浄化センターHD	2,333
ICU/EICU血液浄化	917
血漿交換(PE)	24
LDL(Low density lipoprotein)	0
CART(Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy)	18
PTA(Percutaneous Transluminal Angioplasty)	317
Shunt Map 作成	66
CAR-T(Chimeric Antigen Receptor T-cell)	3
PBSCH	5
骨髄濃縮	0
DHP(Direct hemoperfusion)	24
《その他機器、手術関連業務》 (件)	
項 目	件数
新規登録機器	366
医療機器修理点検依頼件数	818
ロボット手術件数	135
泌尿器科レーザー装置使用手術	122
整形外科自己血回収装置使用手術	35
急速輸液加温装置使用件数	29
経皮的体温調整装置使用件数	41
ラジオ波治療装置使用件数	3

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

【呼吸関連業務】今年度はRCT(呼吸ケアチーム)としての介入が飛躍的に深化した。患者依頼件数は昨年度の30件から118件へ、人工呼吸器離脱件数は12件から100件へと大幅に増加しており、臨床現場における臨床工学技士(CE)の専門性が強く求められた一年となった。院内ラウンドについても153回と前年を上回る実績を残せたが、目標とする200回には届いておらず、次年度も継続して体制強化を図っていききたい。また、睡眠時無呼吸治療関連ではPSG検査(簡易・終夜)が計151件と高水準を維持しており、引き続き地域医療への貢献に努めた。

【循環関連業務】循環器領域では、多くの項目で過去最高水準の実績を記録した。心臓カテーテル検査は766件(前年640件)、カテーテルアブレーションは301件(前年235件)と、増加傾向が顕著である。また、昨年度に開始したTAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)は20件と本格的な運用へと移行した。補助循環ではIMPELLA(34件)やECMO(45件)の症例数が増加しており、特にVV ECMO(37件)の大幅な増加は、当部門が重症呼吸不全管理において重要な役割を担っていることを示している。デバイス管理業務も7,193件(前年5,217件)と激増しており、遠隔モニタリングを含めた効率的な運用体制の構築が急務となっている。

【代謝関連業務】血液浄化センターでのHD(血液透析)件数は2,333件と増加に転じ、外来・入院ともに安定した運用を行った。急性期血液浄化(ICU/EICU)は917件となったが、症例の重症度に応じた適切な介入を継続している。

また、CART(18件)や血漿交換(24件)といった特殊浄化のニーズが高まっており、新規参画しているCAR-T療法を含め、高度化・多様化する血液浄化療法に即応できる技術力を維持した。

【手術関連・機器管理業務】手術室業務では、ロボット手術への立ち会いが135件(前年114件)とさらに伸長した。新たにラジオ波治療装置の運用にも携わるなど、臨床支援の幅を広げている。機器管理面では、新規登録機器366台に対し計画的な保守管理を遂行した。修理点検依頼件数は818件と前年(1,434件)より減少したが、これは昨年度より開始したポンプ類の使用後点検を徹底したことで、突発的な故障や不適切な取り扱いが減少した「予防保全」の成果であると分析している。

【来年度への抱負】本年度はTAVIやアブレーション、重症不全に対するECMO・IMPELLA管理など、当院が担う高度急性期医療においてCE部門の介入が大幅に増加した一年となった。次年度は、これら高度医療をさらに安全に提供できる体制を担保しつつ、常に最新の技術を研鑽し、病院経営への寄与と患者サービスの向上を両立させる専門家集団を目指していく。